



「楽しい科学」
物作りを通して科学の楽しさを学んだ

科学の楽しさ体感

弘大文化祭で理工学部イベント

児童ら物作りなど挑戦

弘前大学理工学部22教室を開講。「超伝導で人が浮くか？」（吉澤篤学部長）は27日、同大総合文化祭の一環として、文京キャンパスの同学部1号館、2号館で「楽しい科学」「サイエンスへの招待」を開き、子どもたちが科学を使った物作りや体験をした。

「楽しい」は小学生以上が対象で15教室、「サイエンス」は高校生以上が対象で22教室を開講。「超伝導で人が浮くか？」「X線を使って分子の形を見てみよう」「LEGOロボットを作ろう」などが開かれた。「楽しい」では、製作体験できる七つのテーマ別教室も設けられ、多くの子どもたちでにぎわった。工作機械システムや医用ロボットの研究を行う福田真教授の研究室では、子どもたちが振動モーターと歯ブラシを組み合わせたおもちゃ「ハラムシ」作りに挑戦し、科学の楽しさに触れた。

附属小学校6年の堀口泰成君は「歯ブラシにモーターをくっけるときに両面テープを使っていて、意外と簡単にできるものだなと思った。また機会があったら作りたい」と笑顔で話した。

（成田真矢）

※この記事は、陸奥新報社提供です。
無断転載はできません。
[問合せ先]弘前大学理工学研究科
jm3505@cc.hirosaki-u.ac.jp